

2026年2月19日
新白河国際教育学院
(福島県西白河郡西郷村)
井澤慈子

《できる日本語 中級 19課「できる！」の実践報告》

できる日本語 中級 19課 科学の力「できる！」で以下のような活動を行いましたので報告致します。

活動のテーマ：福島第一原子力発電所の事故とエネルギー問題について

～『コミュタン福島』を見学して～（グループ発表）

クラス：中級 2C クラス (16名、国籍 16名ともネパール)

施設見学日：2026年2月6日（施設名：コミュタン福島 <https://com-fukushima.jp/>）

発表日：2026年2月10日

活動のタスク：『コミュタン福島』を見学するにあたって、原子力発電所や放射線、エネルギー問題などについて事前に調べ、見学したことと合わせて発表し、意見交換ができる。

【活動の経緯】

19課の「チャレンジ4」でエネルギー問題や再生可能エネルギーの話題がでてきました。調度そのタイミングで学校旅行があり、『コミュタン福島』という施設へ見学に行くことになりました。『コミュタン福島』は福島の現状や放射線、環境問題などについて学ぶことができる施設です。

そこで、19課「できる！」の活動として、施設の見学とそれに関する発表を行うことにしました。

【活動の流れ】

①発表のテーマを理解してグループを組む

見学に行く前に施設のパンフレットを読んで、4つの見学エリアの内容に合わせて、発表のテーマを決めました。そして自分の興味のあるテーマを選んでグループを組みました。

発表のテーマは以下の4つです。

第1グループ《福島第一原子力発電所の事故について》

※『コミュタン福島』の「ふくしまの3.11から」のエリアで見学したこと

第2グループ《福島第一原子力発電所の事故の後の復興について》

※『コミュタン福島』の「未来創造エリア」で見学したこと

第3グループ《放射線とはなにか》

※『コミュタン福島』の「環境回復エリア」で見学したこと

第4グループ《再生可能エネルギーについて》

※『コミュタン福島』の「環境創造エリア」で見学したこと

②各グループで上記の発表のテーマに関する事を調べる。質問事項などをまとめておく。

③『コミュタン福島』を見学する。

④事前に調べたことや見学でわかったことについて、発表資料を作る。

⑤クラスで発表する。（各グループの発表を見ながら、評価シートを記入する。）

⑥発表の後、発表資料を教室に貼って、ポスターセッションを行い、自由に意見交換をする。

⑦評価シートをみながら振り返る。

【活動の成果】

- ・見学前の調査から、実際の見学、発表まで、学生全員が協力し積極的に取り組むことができた。
- ・エネルギー問題が自分たちを含めた地球全体の問題であること、そして今も解決できていない難しい問題であることをクラス全体で共有できた。
- ・発表の後のポスターセッションでは、発表の時は意見や質問が言えなかった学生たちも、活発な意見交換ができた。

【反省点】

- ・発表の仕方や発表資料の作り方について、もう少し時間をかけて指導をするとよかったです。
- ・評価シートをもっと有効に使って、振り返りをするとよかったです。

【感想】

3.11 の大地震と大津波による福島第一原子力発電所の事故、その後の環境回復までの長い道のり、そして原子力に代わる再生可能エネルギーについて、4つのグループがリレー形式で発表しました。

難しく、重いテーマであったにもかかわらず、学生たちは一生懸命に調べて、見学の時も施設の方の説明を真剣に聞いていました。今、自分達が住んでいる福島で 15 年前に起きた大きな事故がどれだけ大変なことだったかを、学生ひとりひとりが感じている様子でした。

発表当日は学院長をはじめ、先生方が発表を見に来てくださり、質問やコメントをいただきました。発表の時は皆、緊張している様子でしたが、わかったことをなんとか日本語で伝えようと、頑張っていました。

自分たちで調べて何かを知ること、そしてそれを皆さんに伝えるという活動が、学生たちに達成感と学習意欲をもたらすことを実感しました。

※学生たちが作った発表資料の一部を抜粋したものと、写真を別紙に示します。

なお、写真の掲載や発表資料の抜粋については、すべて学生の許可を得ています。

以上

【発表の様子と作成資料 第1グループ】

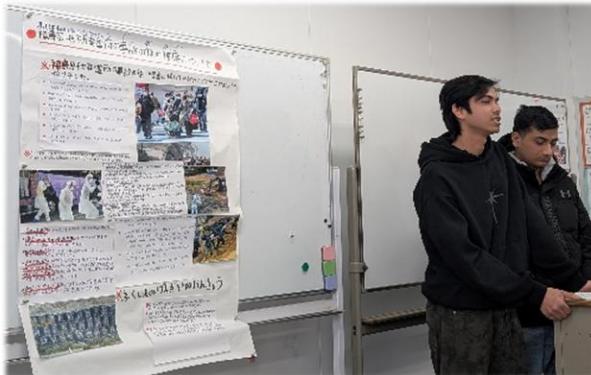


★第1グループ発表《福島第一原子力発電所の事故について》

【発表資料より一部抜粋】

2011年3月11日におおきなじしんがありました。そのあと たかいつなみがきました。
つなみのせいで、ふくしまのげんしりょくはつでんしょがこわれました。
そこから ほうしゃのうがでした。
ほうしゃのうは めにみえませんが、からだにわるいです。
たくさんのひとびとが とおくへ にげなければなりませんでした。
やさいや さかななどがよごれてしまい、うることができなくなりました。
15年ちかく、たちましたが、いまもじぶんのいえに かえれないひとが たくさんいます。

【発表の様子と作成資料 第2グループ】



★第2グループ発表《福島第一原子力発電所の事故の後の復興について》

【発表資料より一部抜粋】

福島原子力発電所の事故の後、福島に住んでいた人々のくらしはこのようになりました。

- ・ほうしゃのうはあぶないので、たくさんのひとが べつのばしょへにげました。(ひなんしました)
- ・ながいあいだ じぶんのいえにかえることができない たいへんなせいかつをおくりました。
- ・ほうしゃせんをだすぶっしつをとりのぞく じょせんというさぎょうをしました。
- ・いえやどうろをみずであらったり、おせんされたつちを けずったりしました。
- ・じょせんのおかげで、ほうしゃせんのりょうは じこのあとより ずっとひくくなりました。
- ・いまは おおくのばしょで、また あんぜんにくらせるようになっています。

【発表の様子と作成資料 第3グループ】



★第3グループ発表《放射線とはなにか》

【発表資料より一部抜粋】

わたしたちは ほうしゃせいぶっしつについて べんきょうしました。

ほうしゃせいぶっしつは めにみえない ほうしゃせんをだすぶっしつです。

ほうしゃせんは つよすぎると わるいえいきょうをあたえます。

ほうしゃせんをだすぶっしつで かんきょうがおせんされると、こんなもんだいがおきます。

- (1) ひとや どうぶつのからだに えいきょうがでる
- (2) たべものが たべられなくなる
- (3) つちやみず、もりがよごれる
- (4) ひとがすめなくなる
- (5) ながいあいだ きえない (…このあともつづきます)

【発表の様子と作成資料 第4グループ】



★第4グループ発表《再生可能エネルギーについて》

【発表資料より一部抜粋】

さいせいかのうエネルギーとは、たいようのひかり、かぜ、水、ちねつなど、なくならずに くりかえしつかえるエネルギーのことです。

たとえば、たいようこうはつでん、ふうりょくはつでんがあります。

このエネルギーは にさんかたんそをあまりださないので ちきゅうおんだんかをふせぐのに やくにたちます。しぜんにやさしく、しょうらい あんしんしてつかうことができます。しかし、てんきにえいきょうされやすいなどのもんだいもあります。

それで、わたしたちは さいせいかのうエネルギーをじょうずにつかい ちきゅうをたいせつにしていくことがだいじだとおもいます。

【発表後のポスターセッションの様子】



【『コミュタン福島』を見学した時の様子】

